

15 の Keyword から紐解く、 高齢者歯科の入門書！



月刊「デンタルハイジーン」別冊
どうして？ どうする？

診療室からはじまる高齢者歯科

戸原 玄 編著

AB判/136頁

定価 3,630 円（本体 3,300 円＋税 10%）

医歯薬出版（2020 年 11 月）

（公社）日本歯科衛生士会 会長
評・武井典子（歯科衛生士）



日本に歯科衛生士が誕生して 70 年が経過しました。歯科衛生士の就業者数は 132,629 名となり、そのおもな就業場所は歯科診療所で、90.5%と圧倒的に多い状況です（厚生労働省「衛生行政報告例」，2018 年）。また、直近の厚生労働省「患者調査」（2017 年）では、歯科診療所受診者の 45%以上が 65 歳以上の高齢者であり、歯科診療所の歯科衛生士に“全身管理”や“医科歯科連携”の学びが必要であることがわかります。

また、地域包括ケアシステムの構築が急がれるなか、歯科診療所の歯科衛生士も地域に出て、他職種と連携してその専門性を発揮することが求められています。地域の病院、在宅、施設等において、在宅療養者や要介護者の口から

食べる機能を維持し、低栄養や誤嚥性肺炎を予防する等の口腔健康管理を担う歯科衛生士の役割に期待が高まっています。

こうした急速な社会ニーズの高まりに対応して、歯科衛生士が高いレベルでその専門性を発揮するためには、学校教育からの継続した生涯研修が不可欠です。そこで日本歯科衛生士会では、都道府県歯科衛生士会と連携して専門研修を行っています。これらの研修を一定単位取得した歯科衛生士は、“生活習慣病予防”“摂食嚥下リハビリテーション”“在宅療養指導”“糖尿病予防指導”“医科歯科連携”“歯科医療安全管理”といったさまざまな社会ニーズに対応するための『認定研修』を受講できます。今後、社会からの期待に応えるためにも、これらの認定研修を受講して歯科衛生士としての臨床実践力を高めることがきわめて重要です。

このようななか、今般『どうして？ どうする？ 診療室からはじまる高齢者歯科』が発刊されました。本書は、単に“高齢者歯科”の解説書にとどまることなく、日常臨床におけるさまざまな場面を想定し、関連する 15 のキーワードに基づいて解説した、臨床実践力を高めるうえできわめて有効な書籍です。本書では、高齢の患者さんが大好きな“DH 子”と“うさ DH”が登場します。うさ DH は高齢者歯科にくわしく、頼れる存在です。この 2 人の歯科衛生士の会話や臨床写真、イラストを交え、それぞれの状況での対応を紐解き、ビジュアルに解説しています。

本書は、歯科診療所だけでなく、病院や在宅、施設等あらゆる場所で活用可能です。本書に登場するいろいろな場面を思い描きながら熟読し、高齢者歯科への臨床実践力を高めていただけますことを願うとともに、皆さんが健康寿命のさらなる延伸に寄与することを祈念いたします。